

# 令和7(2025)年度 病害虫発生予報 第8号

令和7(2025)年11月21日  
栃木県農業総合研究センター  
環境技術指導部

## 病害虫の早期発見に努め、適切に防除しましょう！

予想期間 11月下旬～12月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

### 1 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量：少ない
- (2) 根 拠
- 現在の発生量はやや少ない(ほ場率：平年比25.8%、株率：平年比88.9%)。(－)
  - 向こう1か月の気温は平年並か高い(±～+)、降水量は少ない(－)、日照時間は多い(－)。
- (3) 対 策
- 保温開始後は気温と湿度が本病の発病に適した状態となり、例年11月から12月にかけて発生が増える傾向があるため、適正な温度管理やかん水管理を徹底し、発病を防ぐ。
  - 予防を主体とし、発病前からシグナムWDG(RACコード F:11、7)等を葉裏まで十分に薬剤が付着するように散布する。
  - 曇雨天時にはくん煙剤の使用が有効だが、硫黄くん煙剤は天敵に悪影響を及ぼす可能性があるため、天敵導入ほ場では長時間のくん煙処理は避ける。

### 2 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想 発生量：平年並
- (2) 根 拠
- 現在の発生量はやや少ない(ほ場率：平年比52.8%、株率：平年比50.0%)。(－)
  - 向こう1か月の気温は平年並か高い(±～+)、降水量は少ない(+)、日照時間は多い(+)。
- (3) 対 策
- 雑草はアザミウマ類の増殖源となるため、施設内外の除草を行う。
  - 花をよく観察し、その1割以上にアザミウマ類が見られる場合には、ディアナSC(I:5)等を散布する。
- (4) 備 考
- [防除のポイントNo.19](#)、[アザミウマ薬剤感受性検定結果①](#)、[②](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

### 3 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根 拠
- 現在の発生量は平年並(ほ場率：平年比99.5%、株率：平年比121.1%)。(±)
  - 向こう1か月の気温は平年並か高い(±～+)、降水量は少ない(+)、日照時間は多い(+)。
- (3) 対 策
- ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
  - 化学農薬に対する感受性低下が起りやすいため、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布するとともに、抵抗性が発達しにくい気門封鎖剤や天敵製剤を活用する。
  - 天敵導入時にハダニ類が多いと失敗しやすいため、天敵導入前に気門封鎖剤や天敵に影響の小さい薬剤を散布し、ハダニ類の密度を下げておく。
- (4) 備 考
- [ナミハダニ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

### 4 トマト 黄化葉巻病(TYLCV)

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根 拠
- 現在の発生量はやや多い(ほ場率：平年比126.1%、株率：平年比400%)。(＋)
  - 現在のコナジラミ類の発生量は平年並(±)。
  - 向こう1か月の気温は平年並か高い(±～+)、降水量は少ない(+)
- (3) 対 策
- 施設内外の除草を徹底する。
  - コナジラミ類の侵入を防ぐため、ハウスの開口部(出入口・側窓・天窗)には0.4mm目合以下の防虫ネットを展張し、特に出入口は二重にする。
  - 黄色粘着板を設置し、コナジラミ類の早期発見に努める。
  - 発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取る。抜き取った株は放置せず、土中に埋設するか、ポリ袋等で密封し枯死させてから処分する。
  - 耐病性品種であっても、感染した場合は伝染源となるため、感受性品種と同様に適切な防除を行う。
  - コナジラミ類は低密度でもウイルスを媒介するため、発生初期から登録のある薬剤で防除

する。なお、薬剤感受性の低下を防ぐため、必ず RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。特にタバココナジラミに対しては有効薬剤に限られるため、薬剤感受性検定結果等を参考にする。

- (4) 備考
- ・ 県内ではトマト黄化病の発生が確認されている。トマト黄化葉巻病はタバココナジラミが媒介し、トマト黄化病はタバココナジラミとオンシツコナジラミの両種が媒介する。
  - ・ [防除のポイントNo22](#)、[タバココナジラミ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

## 5 なら 白斑葉枯病

- (1) 発生予想 発生量： **やや多い**
- (2) 根 拠
- ・ 現在の発生量は多い (ほ場率： 平年比 715%、株率： 平年比 200%)。 (+)
  - ・ 向こう 1 か月の気温は平年並か高い (±~+)、降水量は少ない (-)、日照時間は多い (-)。
- (3) 対策
- ・ 施設内が多湿になると発病しやすいため、日中の気温が高い時間帯に換気を行い、湿度を下げる。
  - ・ 捨て刈りした葉は伝染源となるため、施設外に持ち出し、適切に処分する。
  - ・ 予防を主体とし、発病前からセイビアーフロアブル 20 (F:12) 等を散布する。

## 6 野菜類・花き類 ハスモンヨトウ

- (1) 発生予想 発生量： **やや多い**
- (2) 根 拠
- ・ 11 月第 3 半旬までのフェロモントラップによる誘殺数は平年並 (±)。
  - ・ 現在の発生量は、いちごでは多い (ほ場率： 平年比 181.4%、株率： 平年比 200%)。 (+)
  - ・ 向こう 1 か月の気温は平年並か高い (±~+)、降水量は少ない (+)、日照時間は多い (+)。
- (3) 対策
- ・ 定期的にはほ場を観察し、卵塊や分散前の幼虫を寄生葉ごと摘み取り、施設外で適切に処分する。
  - ・ 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が低下するため、発生初期の若齢幼虫のうちに薬剤防除を行う。
  - ・ 野外からの侵入が減少する時期であるが、施設内での防除を徹底し、幼虫が残存しないようにする。

## 7 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現況	発生予想	作物名	病害虫名	現況	発生予想
いちご	アブラムシ類	やや少	平年並	きゅうり	べと病	平年並	やや少
トマト	灰色かび病	少	少	きゅうり	コナジラミ類	やや多	多
トマト	すすかび病	平年並	やや少	にら	アザミウマ類	やや少	平年並
トマト	コナジラミ類	やや少	平年並	きく	ハダニ類	やや少	平年並

### 季節の病害虫防除対策

#### ○ 水稲 越冬害虫

- ・ 再生稲 (ひこばえ) やスズメノテッポウ等のイネ科雑草は、縞葉枯病 (媒介虫：ヒメトビウンカ) や黄萎病 (媒介虫：ツマグロヨコバイ) の媒介虫の増殖源及び病原の獲得源になるため、丁寧な耕起を行いましょう。

#### ○ トマト等 トマトキバガ

- ・ トマトキバガの幼虫は茎葉内部に潜入し、食害しながら孔道を形成します。葉では、食害部の表面のみが残り、薄皮状となって白色～褐色に変色するのが特徴です。果実では、幼虫がせん孔して内部組織を食害するため、果実表面に直径数mm程度の穴が生じ、腐敗の原因となります。被害の拡大を防ぐためには、ほ場をこまめに観察し、疑わしい虫や被害を発見した際には、速やかに適切な薬剤で防除を行うことが重要です。

- ・ [令和 7 \(2025\) 年度植物防疫ニュース No. 3](#) を HP に掲載中です。

#### ○ かんしょ サツマイモ基腐病

- ・ 本病は本県での発生は確認されていませんが、令和 7 (2025) 年 11 月 20 日現在、全国 36 都道府県で発生が確認されています。発病すると、地上部の変色及び枯死、イモの腐敗等の症状が現れます。健全な種苗を導入するとともに、早期発見により被害の拡大を未然に防止することが重要です。

- ・ [サツマイモ基腐病に注意!](#) を HP に掲載中です。

#### ○ 果樹類

- ・ 整枝・せん定作業では、罹病枝の除去や被害部の削り取りを徹底しましょう。処理後の切り口にはゆ合剤を塗布し、病原菌の侵入を防ぐことが重要です。また、落葉は多くの病害の伝染源となるため、放置せず適切に処分しましょう。

## 農薬は適正に使用しましょう

- 農薬を適正に管理し、容器のラベルをよく読み、農薬による事故等の発生を防止しましょう。特に使用時期（収穫前日数）等に注意して農薬を使用しましょう。
- 化学農薬の抵抗性の発達を防ぐため、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布しましょう。
- 花粉媒介昆虫のミツバチ、マルハナバチや天敵に対する影響日数に注意して薬剤を選択しましょう。

### 1か月気象予報（予報期間11月22日から12月21日 11月20日 気象庁発表）

寒気の影響を受けにくいいため、向こう1か月の気温は平年並か高いでしょう。

移動性高気圧に覆われやすいため、向こう1か月の降水量は少なく、日照時間は多いでしょう。

#### 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）

項目	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	20	40	40
降水量	50	40	10
日照時間	10	30	60

詳しくは農業総合研究センター 環境技術指導部 防除課（Tel. 028-665-1244）までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはX「栃木県農政部(@tochigi\_nousei)」、農業総合研究センターホームページ(<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>)でもご覧になれます。



～栃木県からのお知らせです～

## 11月～1月は、「栃木県農薬危害防止運動」の実施期間です。



- 安全作業の第一歩！ 農薬散布時の身支度は万全に！
- いつものチェック！ 農薬使用の際は、ラベルをよく読み正しく使いましょう！
- 農薬散布のその前に！ 風量や風向きに注意して、飛散防止に努めましょう！
- 周辺への配慮！ 住宅地等でやむを得ず農薬を使用する際は十分に配慮しましょう！
- 農薬散布のその後に！ 防除器具の洗浄も必ず行いましょう！